

岡山県感染症週報 2013 年 第 7 週 (2 月 11 日～2 月 17 日)

◎ 岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です。

◎ 岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2013 年 第 7 週 (2/11 ～ 2/17) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 4 週 5 類感染症 風しん 1 名 (20 代 男)
 第 5 週 2 類感染症 結核 3 名 (60 代 男 1 名、80 代 男 1 名・女 1 名)
 4 類感染症 A 型肝炎 1 名 (20 代 男)
 第 6 週 2 類感染症 結核 3 名 (30 代 男 1 名、60 代 男 1 名・女 1 名)
 4 類感染症 A 型肝炎 1 名 (60 代 男)
 第 7 週 5 類感染症 風しん 1 名 (10 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

- インフルエンザは、県全体で 1,561 名 (定点あたり 25.88 → 18.58 人) の報告があり、2 週連続で減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です。
 ○感染性胃腸炎は、わずかに増加しました (定点あたり 8.24 → 9.20 人)。

【第 8 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 44 施設でありました。(2 月 18 日～2 月 21 日まで)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 1,561 名 (定点あたり 18.58 人) の報告があり、前週 (25.88 人) より減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』発令中であり、ひきつづき注意喚起を図っています。
 全ての地域で患者が減少したものの、倉敷市 (30.56 人)、真庭地域 (26.00 人)、備中地域 (22.50 人) で発生レベル 3 が継続し、また、その他の地域ではレベル 2 が継続しており、ひきつづき感染予防に努めてください。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。
 全国の第 6 週 (2/4～2/10) 集計によると、定点あたり 26.70 人であり、前週 (35.82 人) よりも減少しました。定点あたり報告数は 2 週連続で減少し、44 都道府県で前週の報告値よりも減少がみられました。
2. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、わずかに増加しました (定点あたり 8.24 → 9.20 人)。ひきつづき流行シーズン中ですので感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
3. **風しん**は、第 4 週に 1 名 (20 代 男)、第 7 週に 1 名 (10 代 男) の報告がありました。岡山県では昨年 1 年間で 6 名の報告がありましたが、今年は第 7 週までに 4 名が報告されています。
 全国では、関東地方・近畿地方を中心に昨年からの流行がつづいており、2013 年第 1～6 週までに 535 名が報告され、第 4 週以降は 1 週間の報告数が 100 名を越えています。現在の全国における患者の中心は 20～40 代の男性で、患者全体の約 70% を占めており、成人を中心とした流行となっています。風しんは、春先から初夏にかけて患者が増加するといわれていますので、今後も動向に注意してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少

: 1.1 未満の増減

: 1.1～2 倍未満の増加

: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし ★:僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

【お知らせ】

ダニ媒介感染症への注意喚起『[ダニが媒介する感染症に注意しましょう。](#)』を、岡山県感染症情報センターホームページに掲載しました。 野外でのダニ対策や咬まれたときの注意点、ダニが媒介する感染症などを紹介しています。

平成 24 年度子どもの予防接種週間について 平成 25 年 3 月 1 日（金）から 3 月 7 日（木）

4 月からの入園・入学を前に、保護者をはじめとした地域住民の予防接種に対する関心を高め、予防接種率の向上を図ることを目的に、平成 25 年 3 月 1 日（金）から 3 月 7 日（木）までの 7 日間、「子ども予防接種週間」が実施されます。

岡山県内においても、この期間中、趣旨に賛同した医療機関において予防接種を行うとともに、接種に関する相談にも応じます。また、医療機関によっては土・日曜日等、通常の診療時間外の接種も行っています。この機会に母子健康手帳などを確認して、未接種のものがある方は定められた期間内に受けましょう。

特に、麻しん定期接種の 3 期（中学 1 年生相当年齢）・4 期（高校 3 年生相当年齢）の方への接種は、平成 25 年 3 月末までとなっています。まだの方はこの機会にすませましょう。

（[日本の小児における予防接種スケジュール（国立感染症研究所 HP）](#)）

◇協力医療機関：県内 389 医療機関（1 月 25 日現在）

[岡山県医師会](#) ホームページに掲載しています。

【ご注意】 予防接種を受ける際には、必ず前もって医療機関に、相談をしてください。

医療機関によって接種できる時間や、ワクチンの種類が決まっているところがあります。

予防接種についてのお問い合わせは、お住まいの市町村の予防接種担当課、またはお近くの保健所までお願いいたします。また、実際の接種にあたっては、かかりつけ医によくご相談ください。

岡山県では「岡山県予防接種センター」（川崎医科大学附属川崎病院内）を開設しています。予防接種に関して保護者等からの電話でのご質問にお答えしたり、基礎疾患等を持つ方への接種等を行っていますので、ぜひご利用ください。

◇岡山県予防接種センター：電話相談 086-225-2355

相談対応日時 毎週火曜日・金曜日 13:00～16:00

【麻しん・風しんの予防接種について】

麻しん（はしか）は感染力が強く、発症すると通常 7～10 日後には回復しますが、重症化すると重篤な合併症や、生命に関わることがあります。麻しんは 2 回の予防接種で防ぐことができ、ワクチン接種が最も有効な予防法です。接種年齢に達したら、なるべく速やかに接種することが勧められており、該当の年齢で未接種の方は該当の期間中に確実に予防接種を受けましょう。

風しん（三日ばしか）は、2012 年 6 月以降、関東地方・近畿地方を中心に大きな流行になっており、患者は 20～40 代の男性に多くみられます。免疫を持たない女性が妊娠初期にかかると、先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいをもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。

風しんの定期予防接種対象者の方、また、身のまわりに妊娠した方がいる方、風しんにかかったことのない方、予防接種を受けていない方にも風しんの予防接種を受けることをお勧めします。

◆麻しん・風しん混合（MR）ワクチン定期予防接種対象者

第 1 期	生後 12 ヶ月から 24 ヶ月未満の間
第 2 期	5 歳以上 7 歳未満の者で、小学校就学前の 1 年
第 3 期	中学校 1 年生に相当する年齢の者（年度内に 13 歳になる者）
第 4 期	高校 3 年生に相当する年齢の者（年度内に 18 歳になる者）

インフルエンザ情報 2013 年 第 7 週 (2 月 11 日 ~ 2 月 17 日)

岡山県は「インフルエンザ警報」発令中です。

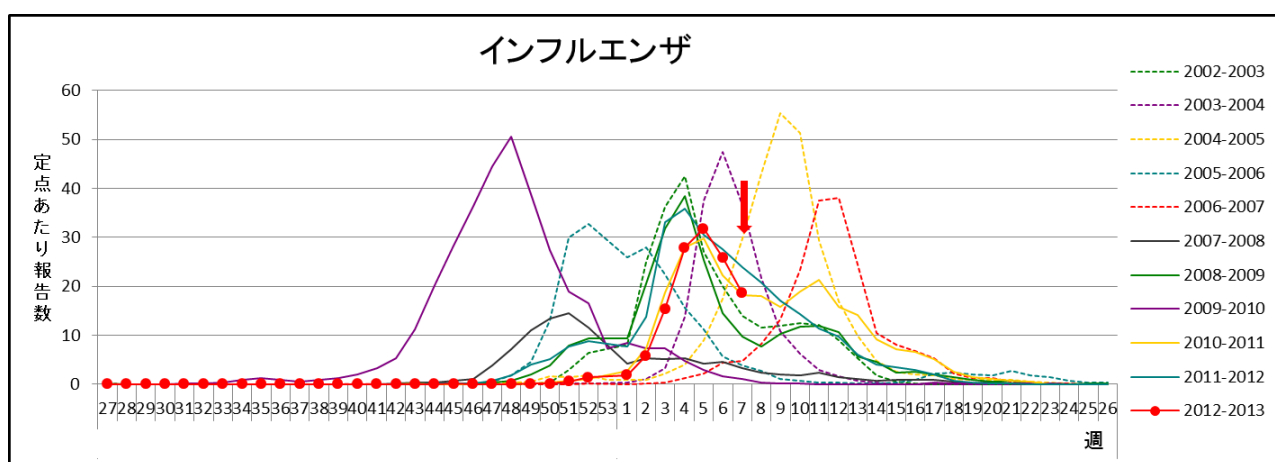
➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 1,561 名（定点あたり 25.88 → 18.58 人）の報告があり、2 週つづけて減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』を発令し、ひきつづき注意を呼びかけています。
- 倉敷市、備中地域、真庭地域で発生レベル 3 が継続しています。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 33 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 8 名の報告がありました。

【第 8 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 44 施設でありました。（2 月 18 日～2 月 21 日まで）

▽岡山市 12 ▽倉敷市 6 ▽備前地域 6 ▽備中地域 11 ▽備北地域 5 ▽真庭地域 0 ▽美作地域 4



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 1,561 名（定点あたり 25.88 → 18.58 人）の報告があり（84 定点医療機関報告）、2 週連続で減少しました。岡山県は『インフルエンザ警報』発令中であり、ひきつづき注意喚起を図っています。

全ての地域で患者が減少しましたが、倉敷市（40.31 → 30.56 人）、真庭地域（32.00 → 26.00 人）、備中地域（30.33 → 22.50 人）では大きな流行が継続していると思われる発生レベル 3[※]がつづいています。また、岡山市、備前地域、備北地域、美作地域では流行が継続していると思われるレベル 2 がつづいています。

第 7 週の学校等の臨時休業は 33 施設から報告があり、前週より減少しているものの、ひきつづき幼稚園児・小学生・中学生を中心とした集団の中での感染に注意してください。

患者は減少しているものの、依然として流行期にあります。感染予防を心がけ、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。また一度インフルエンザにかかっても、型の異なるインフルエンザウイルスに再びかかることがありますので注意が必要です。

※発生レベル 3 の開始基準を一度超えると、終息基準値（10.00 人）より下がらないと、レベル 3 は解除されません。

◆ インフルエンザは流行期に入っています。さらなる感染予防に努めて下さい。

【インフルエンザにかかったら】

- 家に帰ったら、手洗い・うがいをしましょう。
- 人混みに入る時は、マスクを着用しましょう。
- 十分な睡眠、バランスの良い食事などに気を付けて、抵抗力をつけましょう。

【かかったかな？という時は】

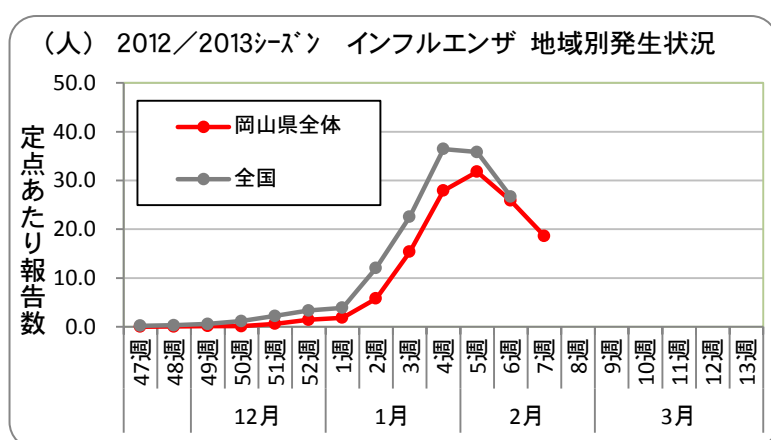
- 早めに医療機関を受診し、確実に治療しましょう。
- できるだけ昼間に受診し、必ずマスクを着用して受診しましょう。
- 周りの人にうつさないように「咳エチケット」を心がけましょう。

1. 地域別発生状況

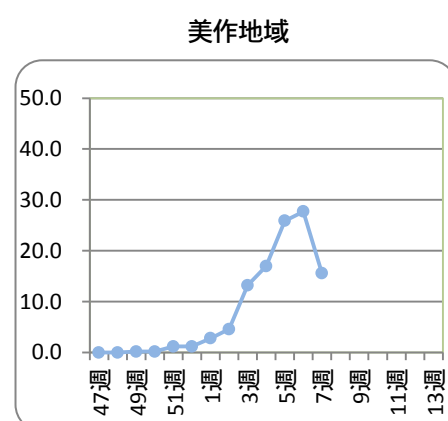
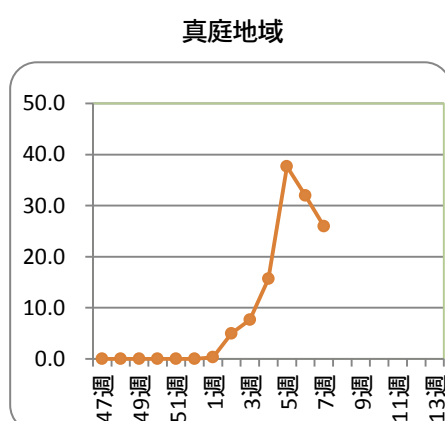
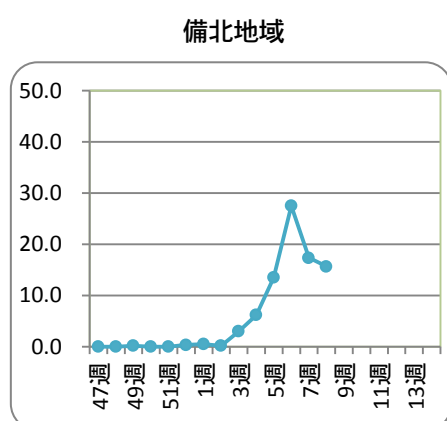
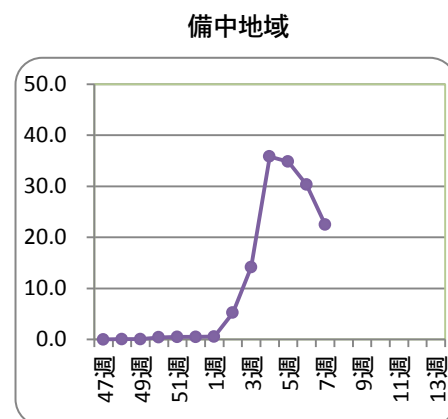
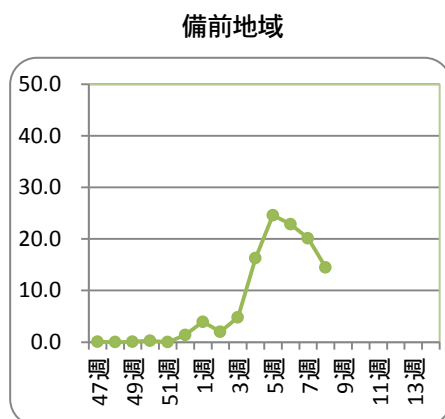
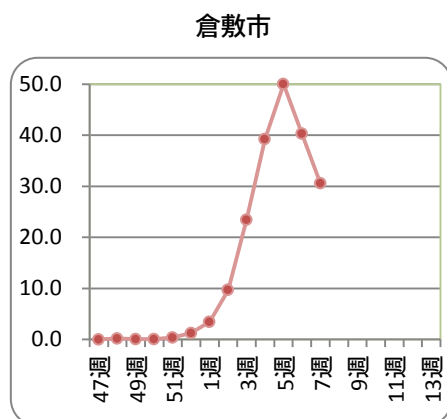
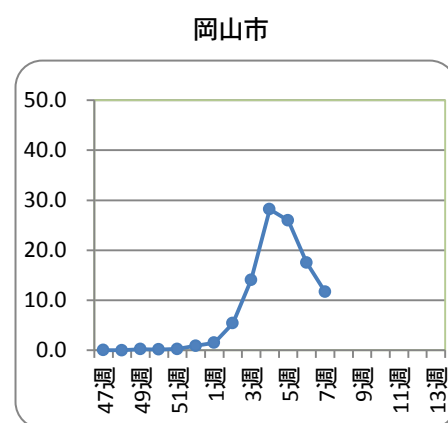
第7週（2/11～2/17） 前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1,561		備 中	患者数	270	
	定点あたり	18.58			定点あたり	22.50	
岡山市	患者数	257		備 北	患者数	94	
	定点あたり	11.68			定点あたり	15.67	
倉敷市	患者数	489		真 庭	患者数	78	
	定点あたり	30.56			定点あたり	26.00	
備 前	患者数	217		美 作	患者数	156	
	定点あたり	14.47			定点あたり	15.60	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑

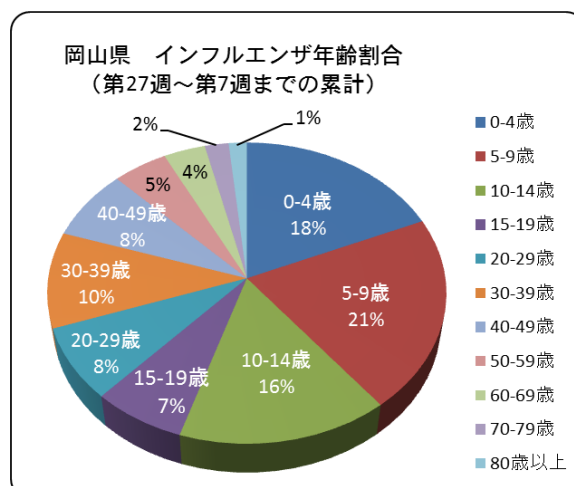
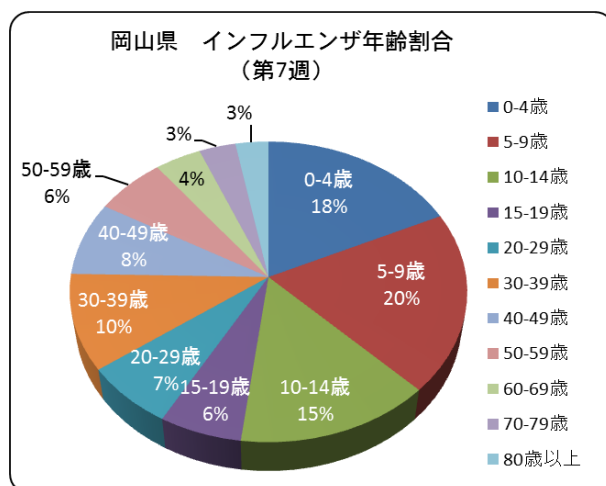
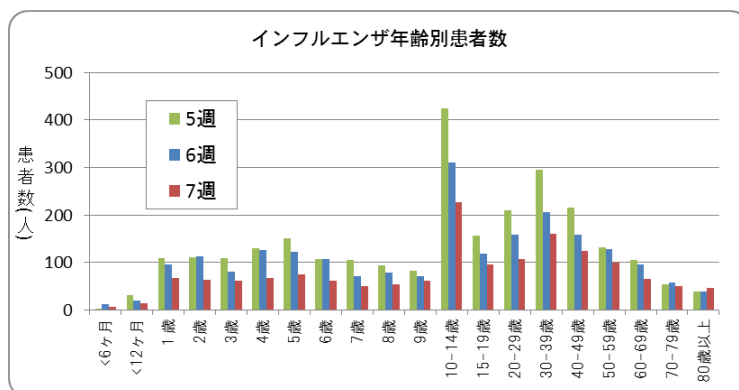


全国集計第6週(2/4～2/10)の定点あたり患者数は26.70人となり、前週(35.82人)よりも減少しました。定点あたり報告数の全国値は第4週をピークに2週連続で減少し、44都道府県で前週より減少しました。

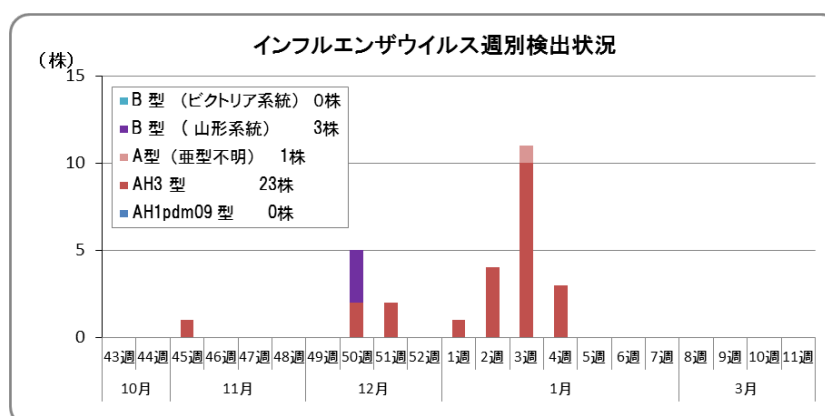


2. 年齢別発生状況 第7週 (2/11~2/17)

第7週の患者の年齢割合は5-9歳が20%、0-4歳が18%、10-14歳が15%の順でした。15歳未満の幼児・幼稚園児・小学生・中学生に該当する年齢層が患者の53%を占めており、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。



3. インフルエンザウイルス検出状況 第7週 (2/11~2/17)



第7週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。これまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が23株、A型（亜型不明）が1株、B型（山形系統）が3株です。

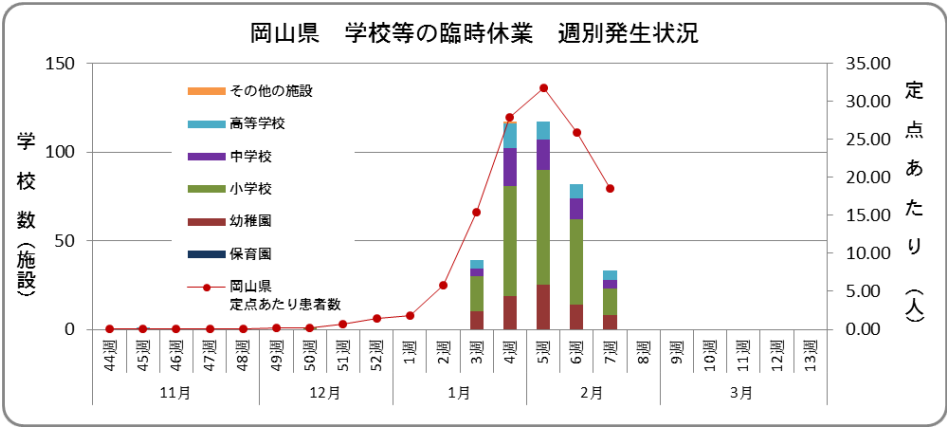
全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く88%、B型が9%、AH1pdm09型が2%の順になっています。昨シーズン同様AH3型が主流になっていますが、全国統計では徐々にB型の検出が増加しています。一度インフルエンザにかかっても、型の違うインフルエンザに再びかかることがありますので注意してください。
[\(インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症情報センター\)](#)

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第7週(2/11~2/17)

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が33施設でありました。

◆第7週 臨時休業施設数

▽岡山市 8 ▽倉敷市 5 ▽総社市 4 ▽浅口市 4 ▽鏡野町 4 ▽備前市 2 ▽津山市 2 ▽瀬戸内市 1
▽吉備中央町 1 ▽笠岡市 1 ▽新見市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第7週

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	349	5484	297	4084	33	390	1	13	13	125	19	252	H 24. 11. 6
岡山市	97	1926	80	1408	8	126	0	1	2	18	6	107	H24. 11. 6
倉敷市	57	1359	53	980	5	78	0	1	2	13	3	64	H25. 1. 15
備前地域	52	660	36	501	4	55	0	3	2	27	2	25	H25. 1. 15
備中地域	90	770	82	631	9	65	0	4	3	29	6	32	H24. 12. 12
備北地域	6	191	6	150	1	19	0	1	1	14	0	4	H25. 1. 21
真庭地域	0	99	0	68	0	8	0	1	0	5	0	2	H25. 1. 21
美作地域	47	479	40	346	6	39	1	2	3	19	2	18	H25. 1. 15

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第7週：33施設 累計：390施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	8	76	15	211	5	59	5	43	0	1

◆ インフルエンザによる出席停止期間が改正されました。

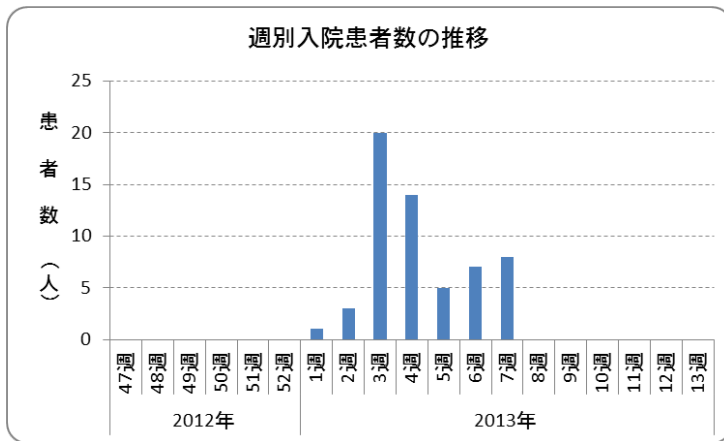
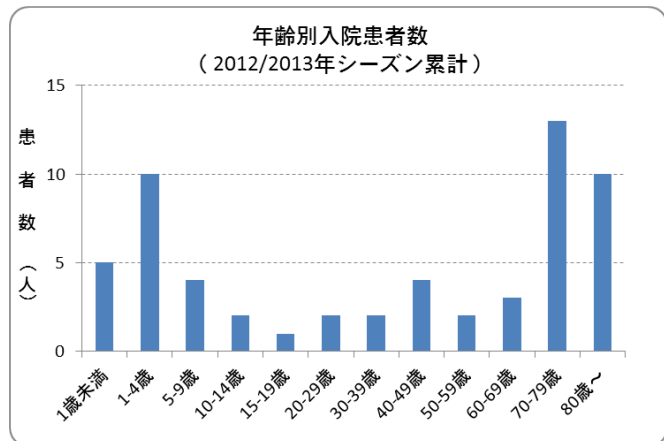
平成24年4月1日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後2日を経過するまで」から「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては、3日)を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数 第7週（2/11～2/17）（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は8名（幼児4名、30代1名、40代1名、70代1名、80代1名）の報告がありました。10歳未満の幼児、70歳以上の高齢者で入院患者が増加しています。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第7週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	2	1	1				1	1			1	1	8
ICU入室													
人工呼吸器の利用							1						1
頭部CT検査(予定含)			1				1						2
頭部MRI検査(予定含)							1						1
脳波検査(予定含)							1						1
いずれにも該当せず	2	1						1			1	1	6

*重複あり

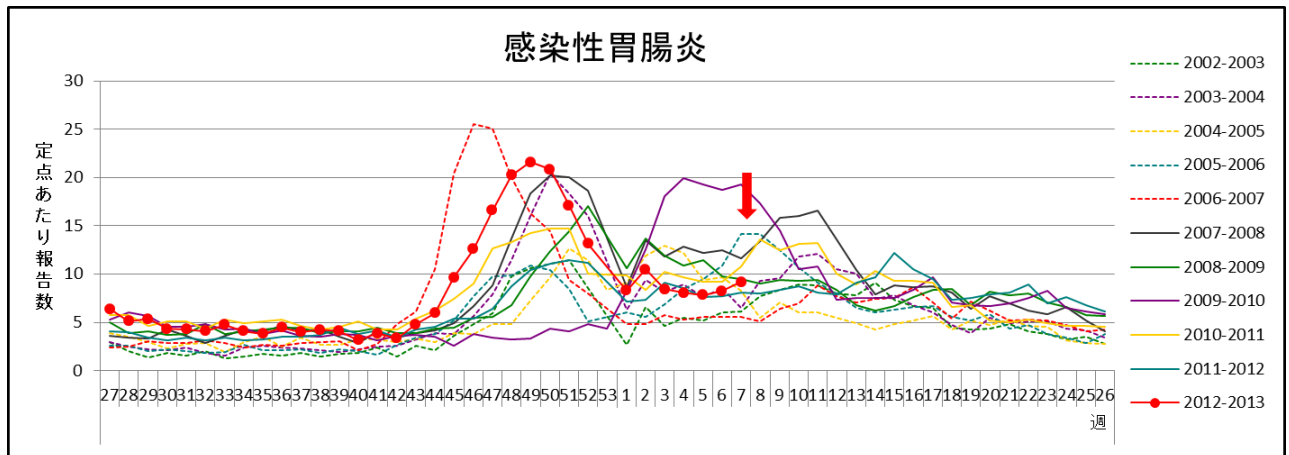
【平成24年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	5	10	4	2	1	2	2	4	2	3	13	10	58
ICU入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部CT検査(予定含)		2	2	1	1	1	1				2		10
頭部MRI検査(予定含)		2	1		1		1						5
脳波検査(予定含)							1						1
いずれにも該当せず	5	7	1	1		1	1	4	2	2	11	10	45

*重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 7 週 (2 月 11 日 ~ 2 月 17 日)

○岡山県内の患者報告数は 497 名（定点あたり 9.20 人）であり、わずかに増加しました。（54 定点医療機関報告）



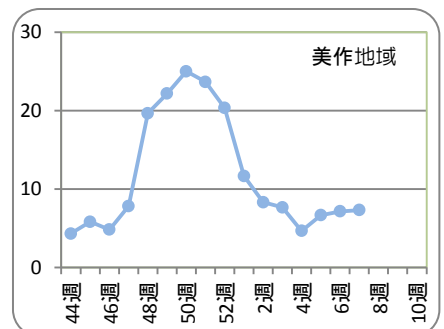
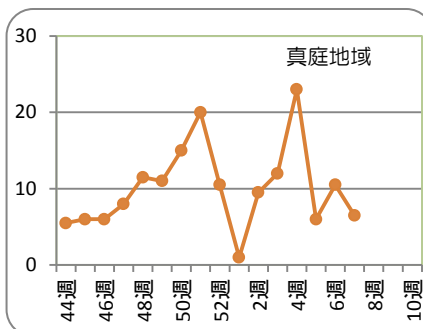
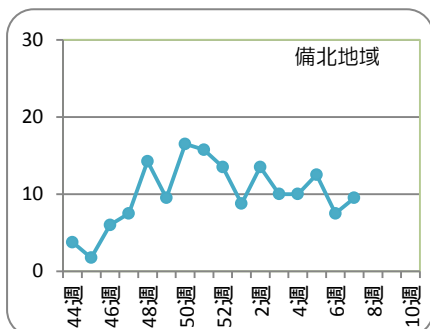
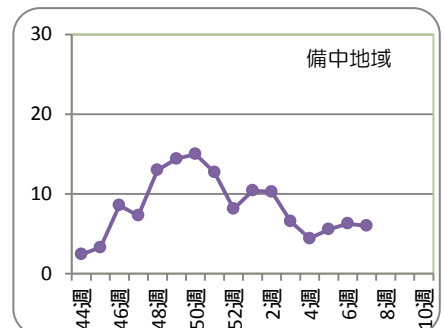
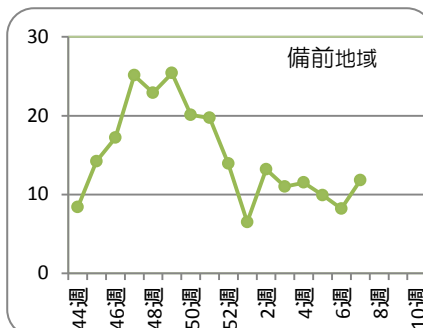
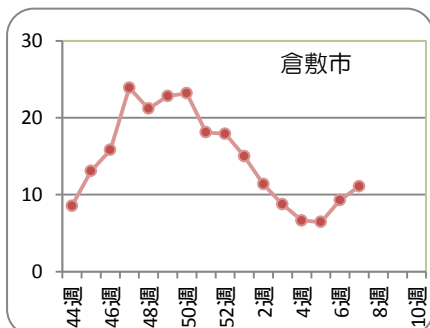
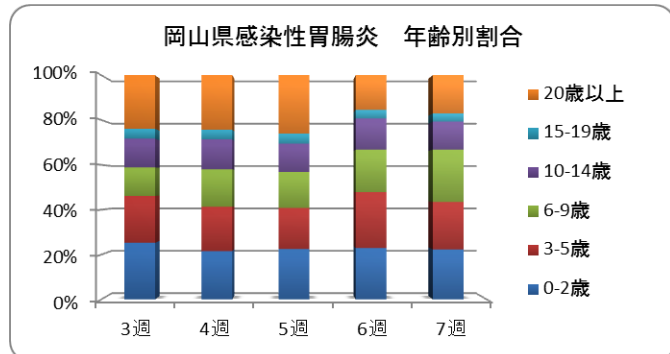
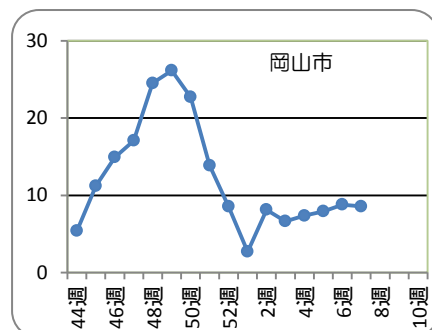
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、前週よりわずかに増加しました（定点あたり 8.24 → 9.20 人）。地域別では倉敷市（11.09 人）、備前地域（11.80 人）、備北地域（9.50 人）で患者増加がみられます。年齢別では、5 歳以下の幼児が全体の 43% を占めています。

大きな流行は過ぎたものの依然として流行シーズンはつづいています。手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理などの感染予防と拡大防止に努めてください。

また、これから春にかけて、0~2 歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎も増加してきます。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれていますので注意が必要です。小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆地域別・年齢別発生状況



保健所別報告患者数 2013年 7週 (2013/02/11～2013/02/17)

2013年2月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1561	18.58	257	11.68	489	30.56	217	14.47	270	22.50	94	15.67	78	26.00	156	15.60
RSウイルス感染症	13	0.24	5	0.36	—	—	—	—	6	0.86	—	—	—	—	2	0.33
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	0.59	9	0.64	9	0.82	—	—	1	0.14	—	—	—	—	13	2.17
感染性胃腸炎	497	9.20	120	8.57	122	11.09	118	11.80	42	6.00	38	9.50	13	6.50	44	7.33
水痘	62	1.15	24	1.71	25	2.27	4	0.40	6	0.86	1	0.25	—	—	2	0.33
手足口病	6	0.11	2	0.14	2	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.33
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	—	—	2	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	21	0.39	11	0.79	3	0.27	2	0.20	—	—	—	—	—	—	5	0.83
百日咳	1	0.02	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	11	0.20	7	0.50	1	0.09	3	0.30	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	3	0.60	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	3	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1.00	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 7週 (2013/02/11～2013/02/17)

2013年2月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1561	18.58	257	11.68	489	30.56	217	14.47	270	22.50	94	15.67	78	26.00	156	15.60
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	0.59	9	0.64	9	0.82	—	—	1	0.14	—	—	—	—	13	2.17
感染性胃腸炎	497	9.20	120	8.57	122	11.09	118	11.80	42	6.00	38	9.50	13	6.50	44	7.33
水痘	62	1.15	24	1.71	25	2.27	4	0.40	6	0.86	1	0.25	—	—	2	0.33
手足口病	6	0.11	2	0.14	2	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.33
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	—	—	2	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	11	0.20	7	0.50	1	0.09	3	0.30	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	3	0.60	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第7週 2013/02/11～2013/02/17)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1561	6	14	68	63	62	68	75	62	50	55	62	227	96	107	161	124	99	65	51	46

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	13	1	6	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	-	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	-	-	-	1	5	2	6	3	5	1	4	3	-	2
感染性胃腸炎	497	5	19	50	37	33	35	37	40	28	19	29	62	18	85
水痘	62	1	4	15	10	17	5	6	2	-	1	-	1	-	-
手足口病	6	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	1	7	11	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	11	-	-	1	-	2	2	1	2	-	1	-	2	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

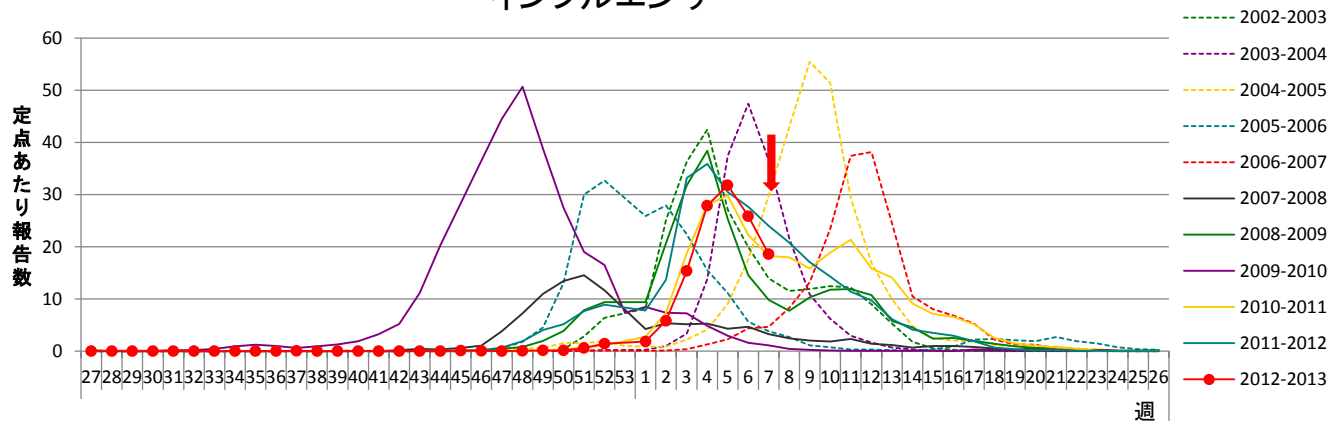
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

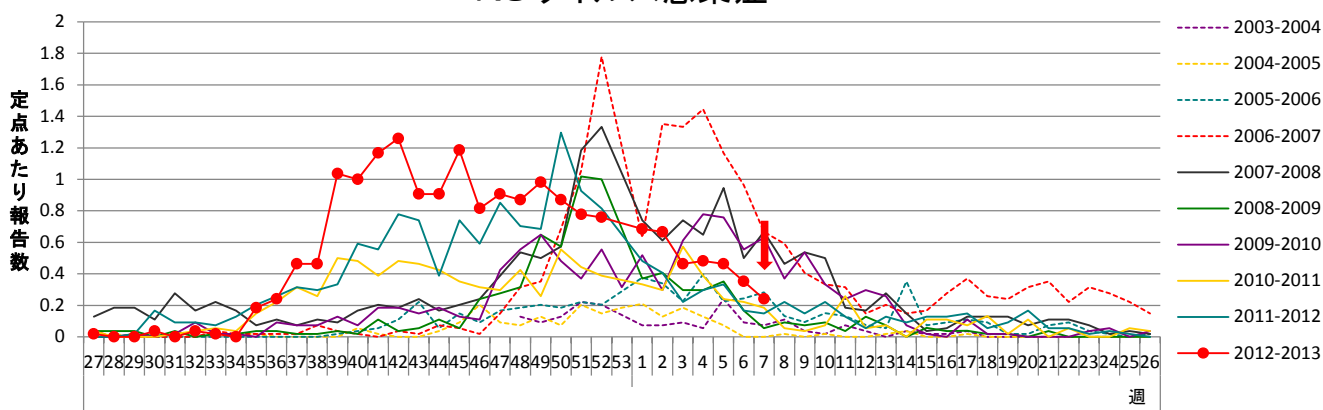
2013 年 7 週

分類	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012	
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	22	477	ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	2	169	
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	2	
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	
	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	
	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-	
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	
	レジオネラ症	-	3	29	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	1	11	ウイルス性肝炎*3	-	-	7	急性脳炎*4	-	-	2
		クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
後天性免疫不全症候群		-	1	15	ジアルジア症	-	-	3	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-	
先天性風しん症候群		-	-	-	梅毒	-	2	7	破傷風	-	-	1	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	1	4	6	
麻しん		-	-	6		-	-	-		-	-	-	

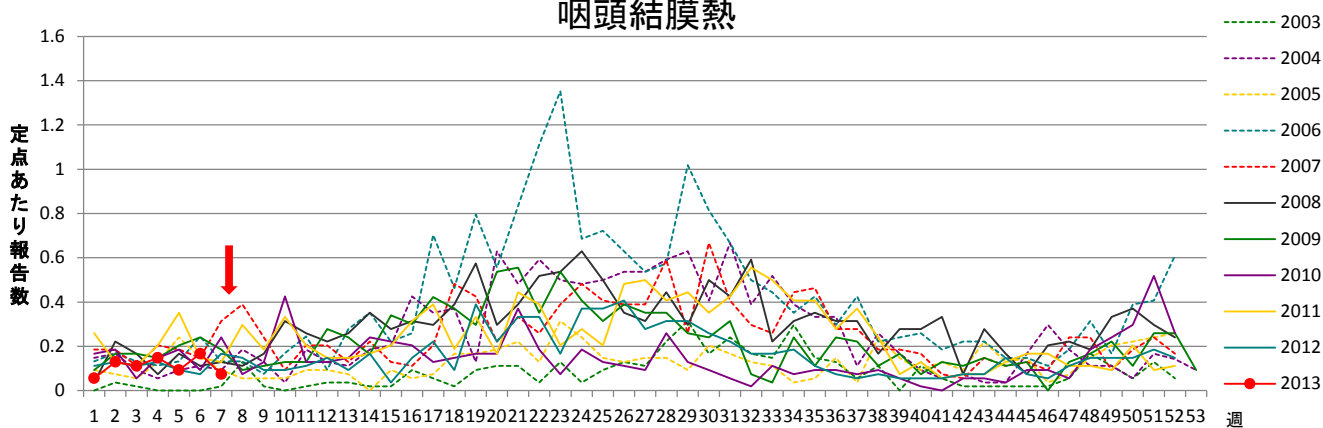
インフルエンザ



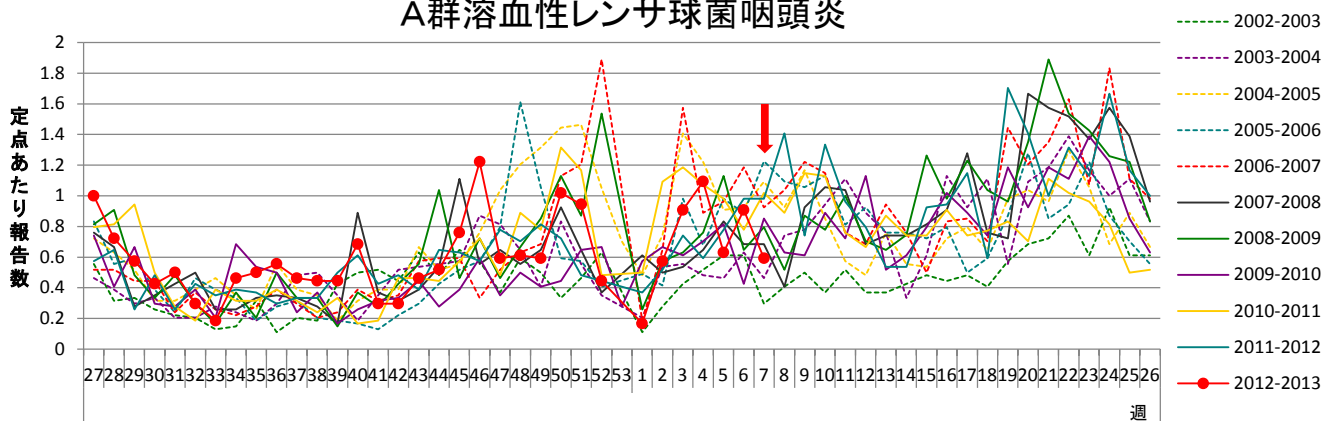
RSウイルス感染症



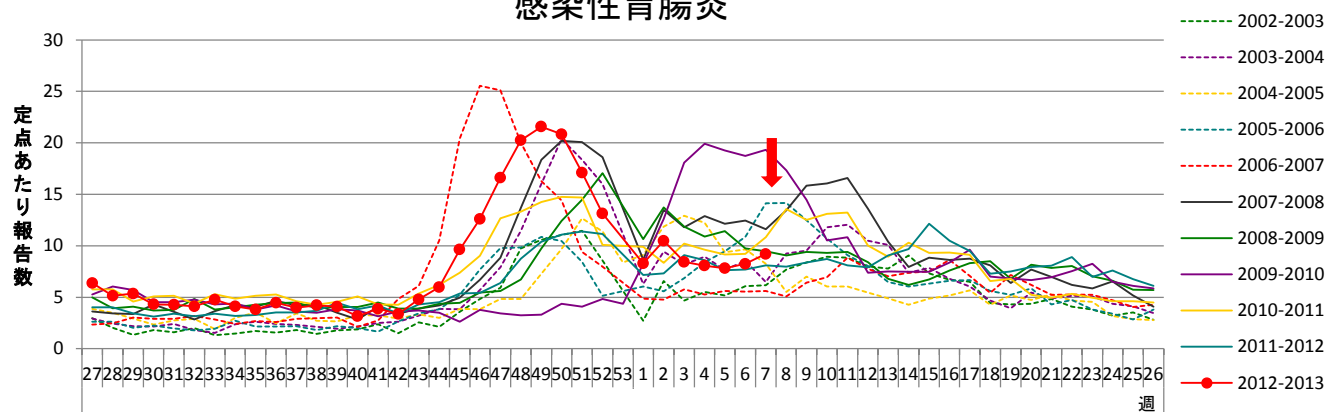
咽頭結膜熱



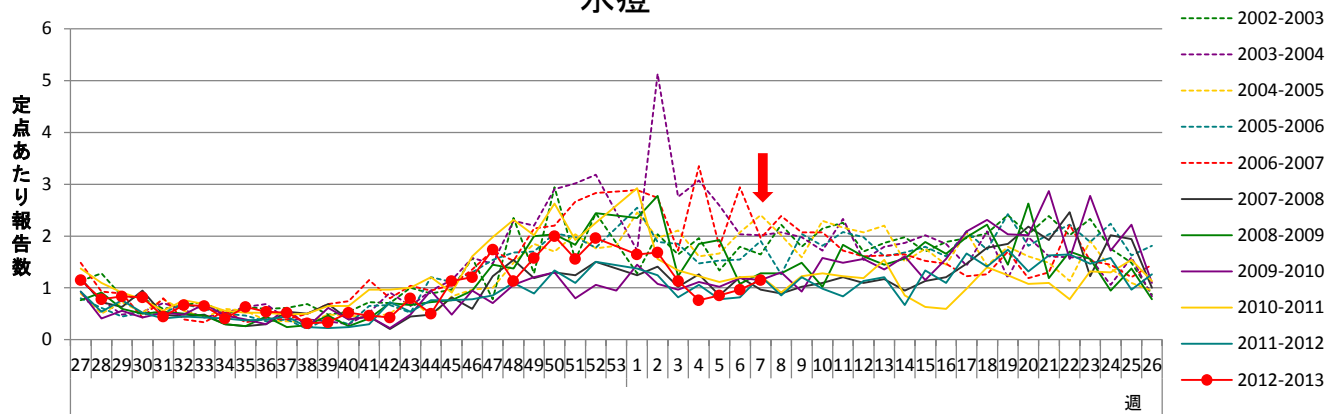
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



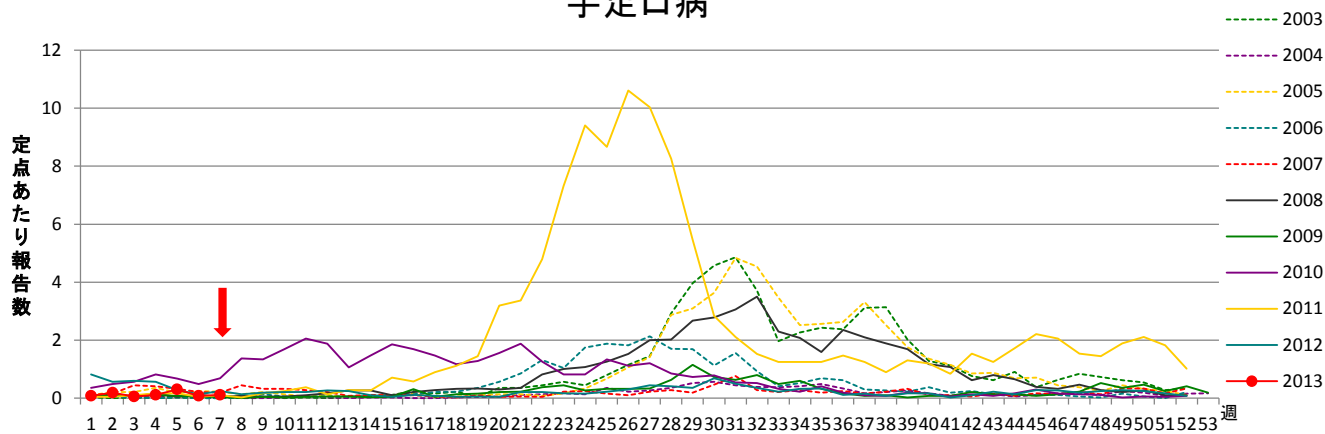
感染性胃腸炎



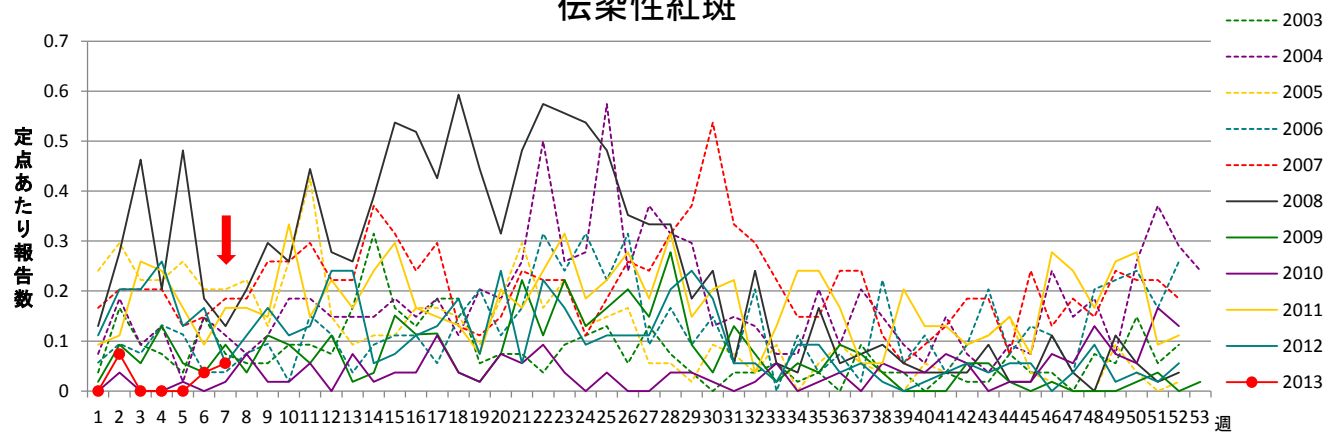
水痘



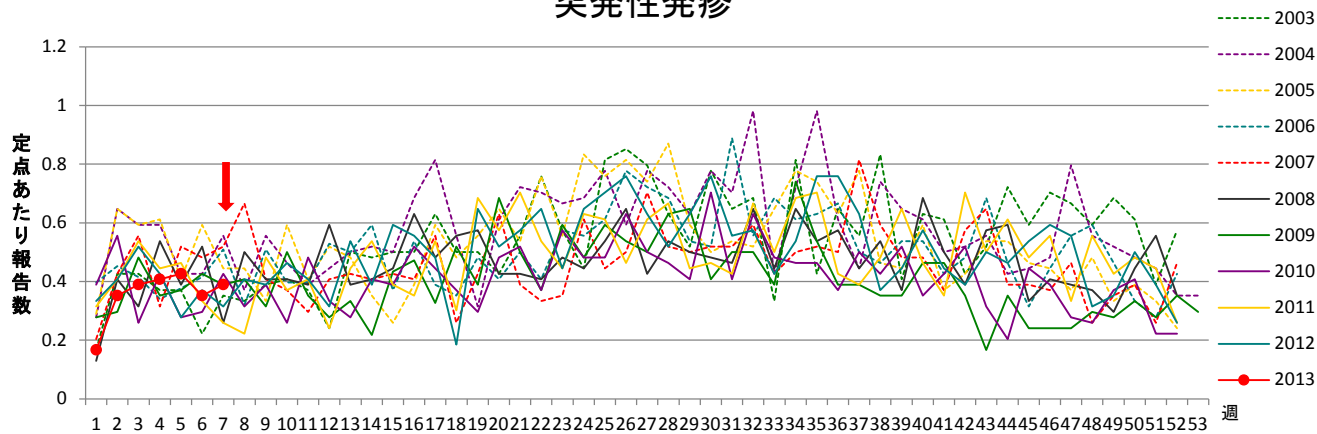
手足口病



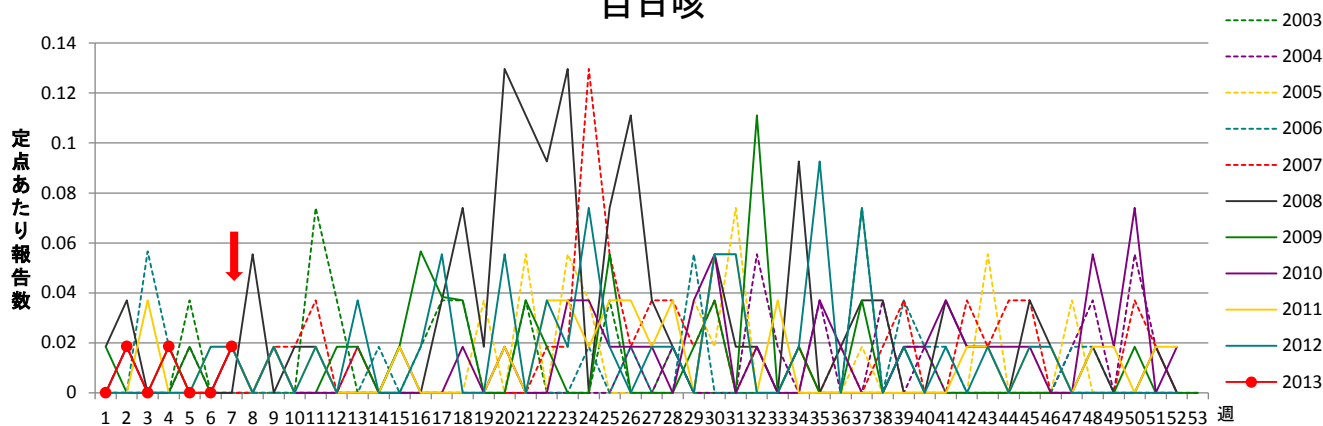
伝染性紅斑



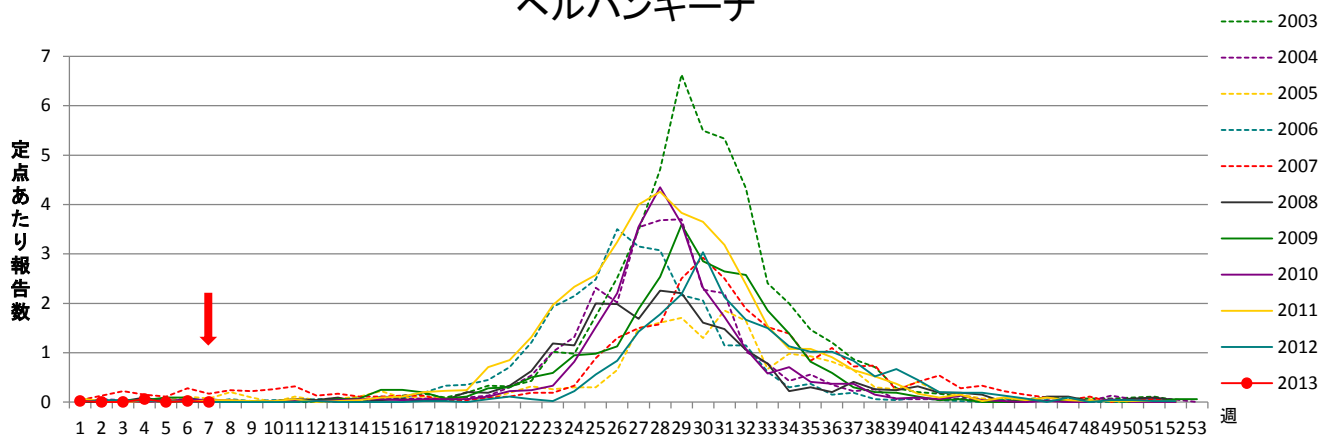
突発性発疹



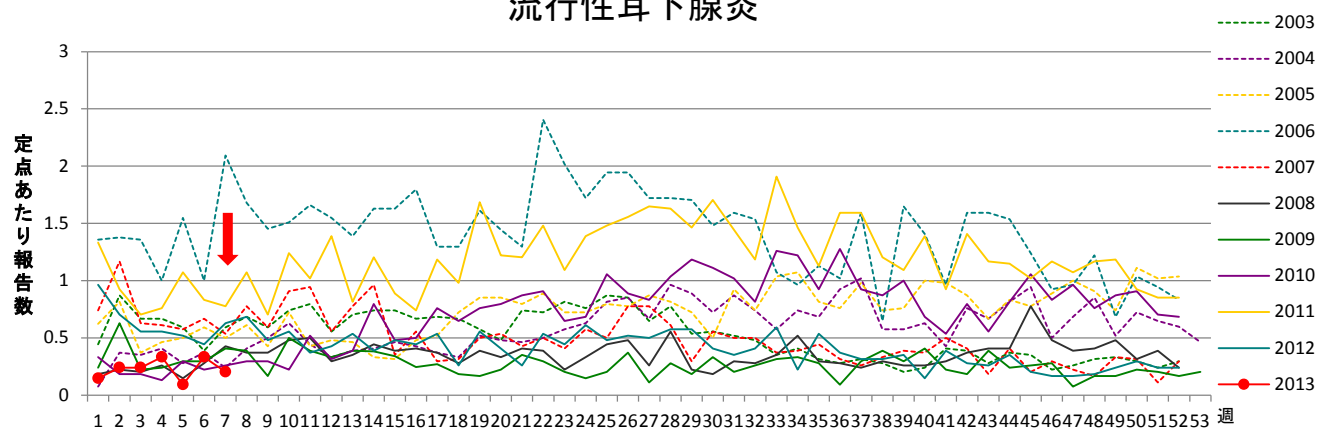
百日咳



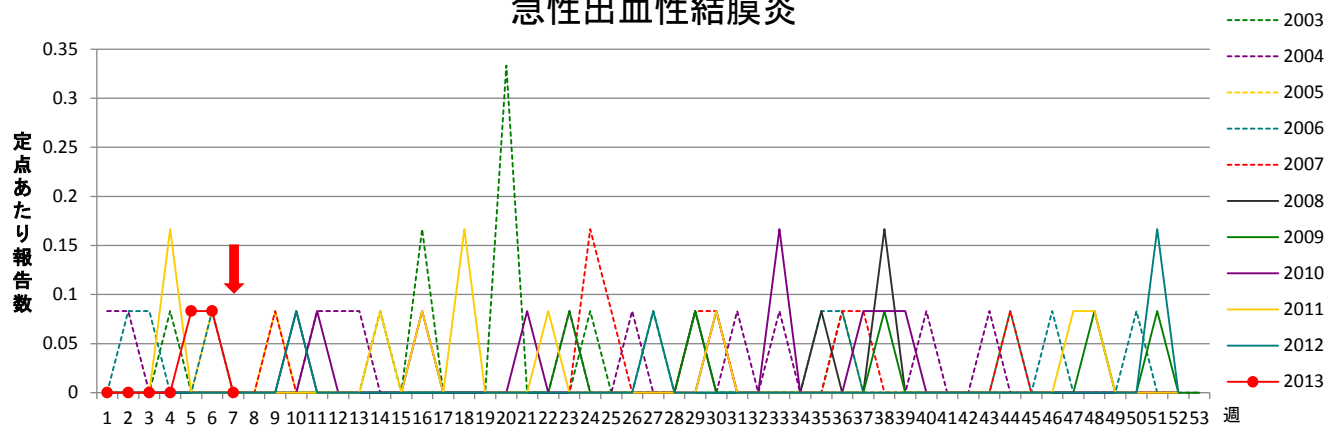
ヘルパンギーナ



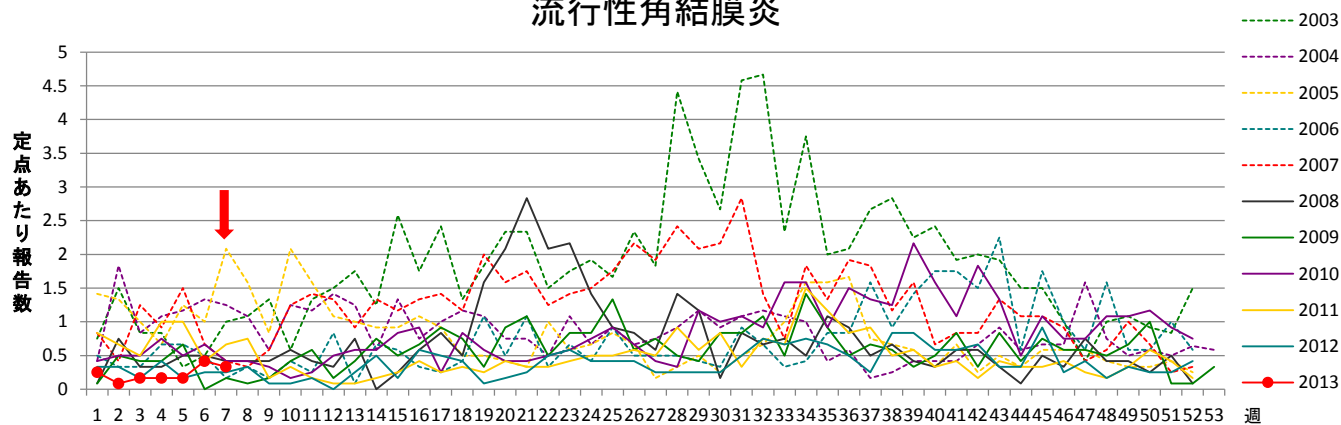
流行性耳下腺炎



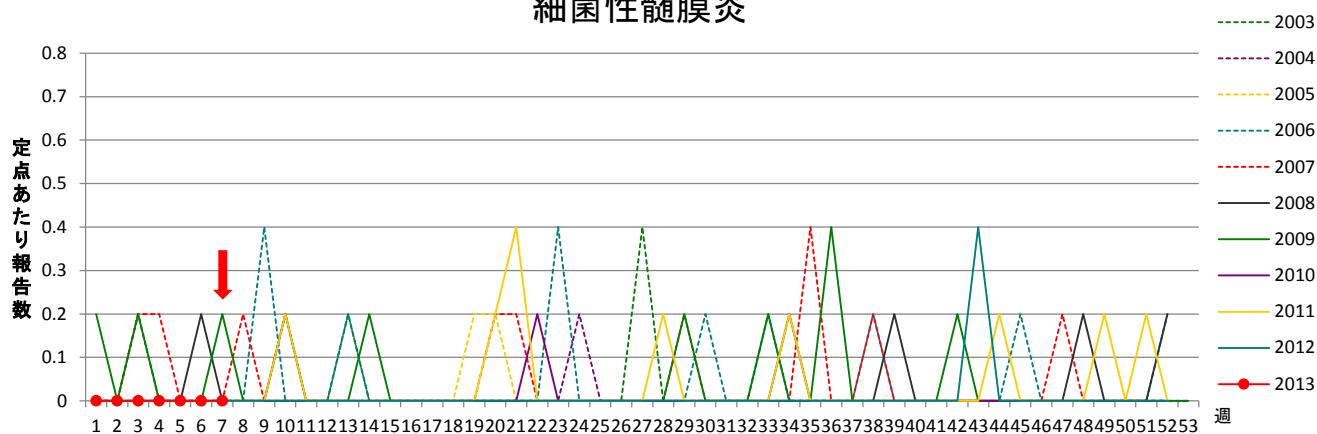
急性出血性結膜炎



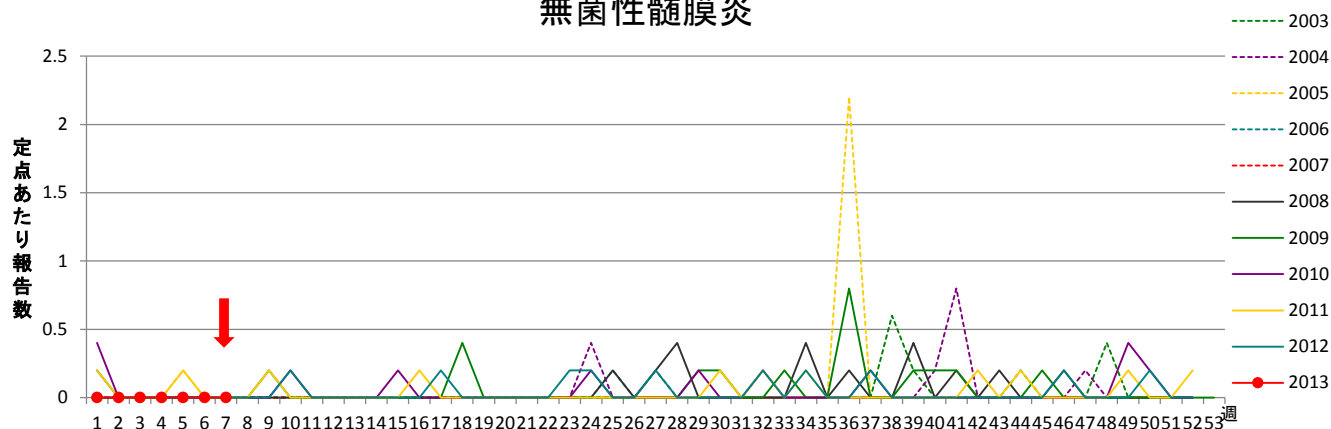
流行性角結膜炎



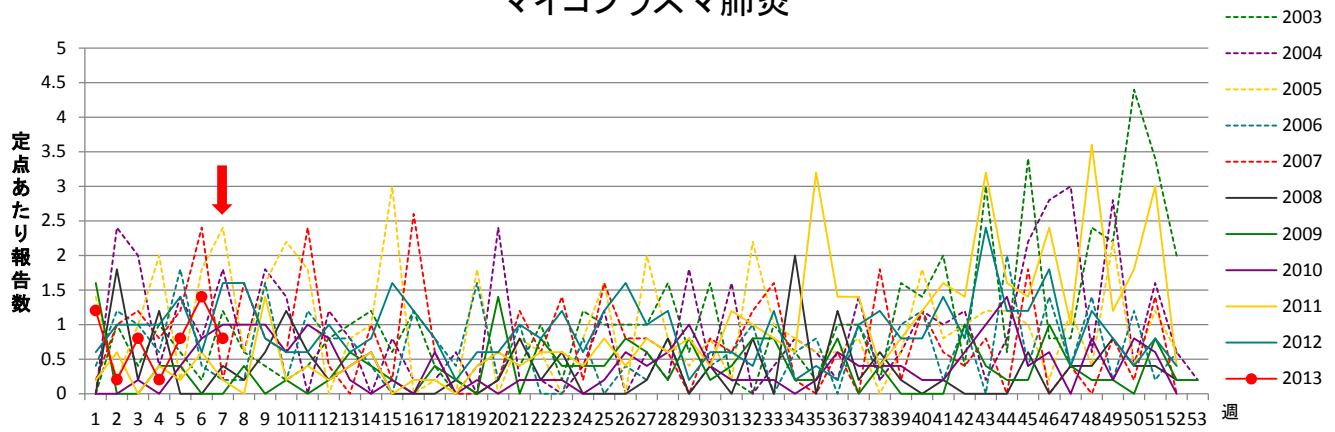
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

